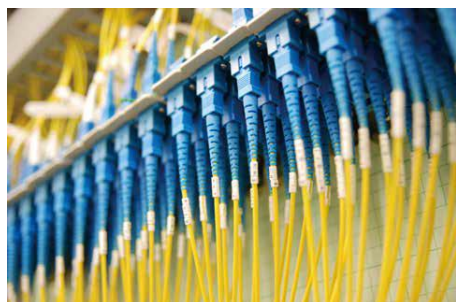


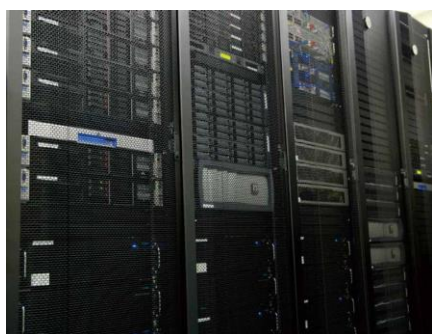
私たちの班では、NTT 西日本の方々の協力の下、通信ネットワークの設備の見学を行いました。この見学の目的としては、今や私たちの日々の生活の一部となっている「通信」の仕組みを知ることと、それを西日本の通信網を一手に担っている NTT 西日本の設備を通して理解することでした。

NTT 西日本の設備見学に行った私たちはまず、IP 設備を見学しました。IP 設備というのは、IP と呼ばれるプロトコル（規約）を用いた通信を行うもので、企業などに提供されている通信網を司っています。次に見学したのが、伝送設備という情報の形式を変換して伝送路上に流し込むためのものです。伝送設備に関しては、如何に効率よく多重化し遅延なく完璧な情報を伝送するかが重要になってくるため、その発展の歴史には目を見張る



ものがあります。そしてその後、この見学のメインである、とう道を見学しました。とう道は、電話やインターネットの利用者やプロバイダーを結びつけるケーブルが敷かれた地下の通り道のことで、社員でも気軽に入ったり出来ない、セキュリティの厳重な場所です。何か大きな事故や災害があったときでも大丈夫なように、とう道の中

には色々な設備が設けられています。たとえば、とう道の中で火事が起こってもケーブルが断線しないよう防火シートが敷かれていたり、地震に強い形に設計されていたりなど、あらゆる危険を想定して、対策が取られていました。この後、最後に電力設備を見学しました。ここでも、とう道と同じように、地震などの災害時でも施設を運用できるようにするための工夫が凝らされていました。



とう道の見学に加えて、同志社大学のキャンパス内にも通信設備があることを知り、そちらの方も見学しました。こちらでは、より専門的なサーバ類やセキュリティなどの仕組みを身近な例から理解することが出来ました。

以上の二つの見学を通して、生活に深く根ざしている通信のインフラには、絶対にシステムをダウンさせないように、何かあったときのために何重にも保険がかけられていることが分かりました。